

当事者発想

あなたの「誰かのため」は、
何のためか？

佐藤徹
Toru Sato

川合俊輔
Shunsuke Kawai

各務太郎
Taro Kagami

はじめに この本の読み方

Tojisha Thinking

本書を手にとっていただいたことに、深く感謝の意を表したい。この本は、知識を増やすための本というより、「**自分がどんな問いを立てて生きているのか**」を見直すための本である。だから、最初から順番に読んで理解しようとするよりも、むしろ自分の中にある違和感や、最近気になっている出来事を持ち込んで読むほうが、本来の力を発揮することだろう。

どんな人向けの本なのか、というところでは、次のような方々におすすめしたいと考えている。

・「社会のため」「誰かのため」と思って行動したいのに、なぜか気持ちが乗らない人、ポジティブな反響・反応が得られていない人、行動したにもかかわらず望ましい成

果が得られていないと感じている人

・SDGsや多様性やDXなど、正しいとされるテーマには賛成できる。しかし、それを自分の問題として動けるかと言われると、どこか遠い話に感じてしまう人

・良いことをしたいと思っているのに、現場ではうまくいかず、誰かを助けたつもりが相手に嫌がられてしまったり、むしろ関係が悪くなったりしてしまった経験がある人

この本が扱っているのは、「みんなにとって良いこと」と「自らが視ている現実」の間にある溝だ。社会の正しさは、たいいてい大きな言葉で語られる。国や企業や専門家が、社会全体のために必要だと言う。しかしその言葉は大きすぎて、個人が引き受けられる形になっていないことが多い。そのとき、問われていることが個人の行動につながる形に翻訳されていないと捉えることが大切になる。この本は、その翻訳の仕方を扱っている。

この本の読み方の中心は、「誰かのために」という言葉を疑うことにある。誰かを助けない、良いことをしたいという気持ちは、もちろん悪いものではない。ただ、善意

は必ずしも望ましい結果につながるとは限らない。文脈や当事者の状況を十分に踏まえなければ、ときに空回りしてしまうことがある。助ける側は合理的に考え、「これが役に立つはずだ」と思う。しかし助けられる側には、その人なりの自尊心や過去の経験から来るこだわり、そして不安や怖さがある。同じ行為でも「誰かの思い通りにされているように感じる」「自分を否定されたように感じる」と受け取られることがある。ここで着目すべきは、善意の不足ではなく、前提がズレていることだ。

本書では支援や配慮が失敗するとき、そこには「助ける側と助けられる側が対等ではない」という構造が隠れていると説明している。つまり、助ける側が無自覚に強い立場に立ってしまうと、支援はいつのまにか支配に変わってしまう。そのため、問いは「何をしてあげるか」ではなく、「どんな関係の中で、一緒に何を考えるのか」でなければならぬ、という方向へ導かれることだろう。

この本が本当に役に立つのは、「良いことをしたいのに、どうしていいかわからない」ときだ。あるいは「正しいはずの仕組みが、なぜか人を傷つけている」と感じたときかもしれない。この本は、あなたに正解をくれるわけではない。ただ、あなたが

何を問題として扱うべきかを見抜く目を育ててくれる。つまり、答えを探す本ではなく、問いを立て直す本であると考ええる。

目次

Prologue

はじめに この本の読み方…………… 3

プロローグ 13

「みんなにとって良いこと」と「自分ごと」の狭間…………… 14
誰のために存在するのか？ を忘れたシステムたち…………… 22
この本の著者は何者か？…………… 33
当事者とは誰か？…………… 39
当事者発想とは何か？——システムと個人の断絶を越えて…………… 50
当事者発想がもたらすもの…………… 68

1

“誰かのため”がすれ違う理由

77

「誰かのためになりたい」と願うあなたへ……………78

「誰かのために」が空回りする構造……………82

失敗する「みんなのため」、成功する「ひとりのため」……………93

Column
#1

あなたは、いつ当事者になりますか？……………106

2

当事者発想の技術「Do」 109

その人らしい服を選ぶように……………110

「なりたい自分」の3種類のニーズ……………118

— Have ニーズ、 Do ニーズ、 Be ニーズ……………118

1通の手紙と、スタンダードを変えるということ

Asiisの「点」を定義する——イシュー(点)を定義する	122
ToBeの「点」を見出す	
——インサイド・アウトとアウトサイド・インの思考術	125
「線」を結ぶ——2つの点を結んで戦略(線)を考える	129
「面」に広げる——戦略(線)を普遍化(面)にする	132
「面」が広がる5つのパターン	134
技術による「面」の広がり…文脈が変わることと価値が広がる	147
制度による「面」の普遍化…ルールが文化になる瞬間	153
時間軸をともなう「面」の社会化…次元を超えた昇華	158
“面”が広がる”とは何か	164
Aーは“見えていない問題”を見出せない	169
当事者発想の落とし穴	172
潜在的なイシューを見極めるために	194
付録…当事者発想フレームワークNIIキャンパス	201

3

当事者発想を

ドライブさせる思考「Think」

213

当事者をどう捉えるか？

共感の障壁の正体——思いやりはどこまで広がるか？

自らの内なる善意の存在を壊す

214

218

237

Column
#3

ホンダ・スーパーカブとそば屋の物語から考える

243

4

当事者発想を育む

土壌となる技術「Cultivate」

247

他者を受け入れ、当事者と未来を共有し

関与するための当事者発想5段階モデル

当事者発想の段階を行き来する揺らぎ

248

293

Column #4

代弁者としてのスペキュラティブデザイン 297

分野を横断する

当事者発想のこれまでとこれから

301

Column #5

デザインの系譜と関係性への転換 304

当事者発想の基礎としてのインクルーシブデザインの思想 315

医療・福祉・教育に見る意思決定の進化 319

共創の、その先へ——未来を選び続けるということ 325

最後に 327

当事者発想はやさしさではなく戦略である 332

エピソード

337

寄付プラットフォーム Syncable の運営を通して得た洞察 …………… 338

Aーは問いを立てることはできない

—— 問いを立てる方法論としての当事者発想 …………… 342

当事者発想を軸にした事業開発に取り組む企業 …………… 347

この書籍そのものの当事者発想とは何だったのか? …………… 351